

# 2022年度 事業計画書

## 事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2022年 4月 1日

至：2023年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

## 盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2022年4月1日 ～ 2023年3月31日)

### ■ 盲導犬の育成・貸与事業

#### 1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

1) 視覚障がい者への盲導犬貸与目標を11頭とする。

※盲導犬申込者(2022年2月時点)4～6名(代替者3～4名、新規申込者1～2名)

2) 2022年度の盲導犬訓練基準認定目標を11頭とし、20頭前後の訓練犬に対して、より充実した訓練を行う。

3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化する。

・ユーザーサポート担当を設け、フォローアップ体制を強化すると共に、他部門と連携し希望者の顕在化に取り組む。

・新型コロナウイルス感染予防に対応する指導体制を継続する。

・ハーネスおよび盲導犬の啓発表示の改良を行う。

4) 訓練士・指導員の養成カリキュラムの改訂に取り組み、完成させる。

#### 2. 繁殖に関すること

1) 2023年度に20～25頭の訓練犬が確保できるように出産頭数60～75頭(出産件数15腹前後)を計画する。

2) 繁殖犬として新たに5～8頭(ラブラドル5～6頭、ゴールデン2頭)を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努めるとともにIGDF基準の達成に向けて取り組む。

- 3) アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク(略称:AGBN)のGD-Bartテストに積極的に取組み、AGBNが目指すアジア地域全体の盲導犬の育種改良に協力する。
- 4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けた年間繁殖計画の説明会を実施する。
- 5) 引退繁殖犬のケアの充実を図る。
- 6) 股関節・肘関節レントゲン検査の体制を整える。

### 3. パピーウォーキングに関すること

- 1) 2023年度 訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を50～55頭委託する。
- 2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を実施する。
  - ・委託終了までの間に、講習会を4回、および家庭訪問を3～4回実施してパピーの飼育指導にあたる。
- 3) パピーウォーカーとの連絡報告・フィードバックをより効果的に行えるシステムづくりを検討する。

### 4. ケネル・老犬ホームに関すること

- 1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問は引き続き担当犬の分担を行い、高齢犬の飼育環境を整えるアドバイスを充実させる。また、老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し個々に合ったケアの充実を図る。
- 2) PR犬の管理方法を再考する。
  - ・PR犬としての意識づけを行うにあたり、ハーネス歩行、体験歩行を取り入れる。また、併せて委託制度の検討を行う。
- 3) 犬舎内衛生環境の強化

- ・除菌消臭剤の使用結果を取りまとめ協力企業にフィードバックする。
- ・感染症拡大防止のため消毒等の対策を強化する。

## 5. 研修に関すること

- 1) 外部研修の活用により、職員のスキルアップを図る。
  - ・視覚障害リハビリテーション基礎講習会の受講
  - ・盲導犬育成ジャパンセミナー、施設職員相互研修会の参加
  - ・その他、オンライン研修会の情報収集と活用
- 2) 職場内ケース発表や事例研究の他、他施設等の見学・情報収集を行い、学び合う環境づくりを行う。
- 3) 自己啓発内規の利用率を高める。

## 6. 犬具飼料等の頒布に関すること

- 1) 盲導犬ユーザー、飼育ボランティアの負担を軽減するため犬具・飼料を低価格で仕入れ頒布する。
- 2) 盲導犬ユーザー、視覚障がい者に歩行補助具・日常生活用具の情報提供と頒布により日常生活を支援する。

## ■ 普及啓発事業

### 1. 盲導犬の普及啓発に関すること

- 1) 盲導犬体験会を実施する。
- 2) 行政機関等を訪問し関係づくりを行うとともに、当事者・行政機関向けの盲導犬オンライン説明会を実施する。
- 3) 飲食店・宿泊施設・医療機関等向けに盲導犬受入れの理解を図ることを目

的とした講習会を開催する。

- 4) 教育機関・福祉事業者・自治体等が実施する盲導犬講習会に講師を派遣し、盲導犬と視覚障害の理解を広げる。また、対面型だけではなくオンライン型の開催にも対応していく。
- 5) 関係団体・商業施設・支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施する。
- 6) 個人を対象とした施設見学会およびオンライン見学会を年4回計画し実施する。
- 7) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げる。
- 8) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回各17000部発行する。
- 9) コロナ禍における盲導犬情報の発信力を強化するために、ホームページ、動画コンテンツの充実を図る。

## ■ 調査研究事業

### 1. 調査・研究に関すること

- 1) 帯広畜産大学との効率的育成技術の共同研究を推進する。
- 2) A G B Nが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力する。

## ■ その他事業

### 1. 財源確保に関すること

- 1) ホームページでタイムリーな情報発信を行うとともに、YouTubeチャンネル、広報誌と連携した情報発信により支援者とのコミュニケーションを強化し、インターネットを介した支援者拡大に繋げる。

- 2) 継続支援ツールとして年表カレンダーの作成・配布を行い、継続率向上に繋げる。
- 3) サポート会員の新規会員目標は200名とする。また、サポート会員に対して計画的な継続支援依頼を行うとともに、個人マンスリー会員・法人会員の拡大に向けた取り組みを行う。
- 4) 募金箱設置店への募金訪問回収と送金依頼を計画的に実施し財源確保を行う。また、新規設置目標は200件とする。その他、既存設置店の設置状況を随時確認し、適切な募金箱管理を行う。
- 5) 新型コロナウイルス感染拡大状況を見極めながら街頭募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大を図る。
  - ・活動予定場所：北海道どさんこプラザ札幌店内、丸井今井札幌本店前ほか
  - ・活動予定日数：どさんこプラザ札幌店内3回（7月・11月・2月）×3日、丸井今井札幌本店前ほか9回×2日、帯広市内1回

## 2. 関連団体との協力連携に関すること

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会、国際盲導犬連盟、北海道盲導犬ユーザーの会、その他各地域にある当協会盲導犬使用者の会との協力・連携を図り社会環境整備に参画する。

## 3. その他

車両更新計画に基づき、訓練車両1台（ミニバン）の民間助成金申請を行う。

## 社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2022年4月1日 ～ 2023年3月31日)

### 1. 生活訓練の実施に関すること

- 1) 新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに基づいて短期入所訓練を実施する。実施回数及び指導数は、10回、10～15名とする。また、新規訓練希望者は4名を目標とする。

開催日程予定

第1回 4/ 4～ 4/15、第2回 5/16～ 5/27、第3回 6/13～ 6/24

第4回 7/11～ 7/22、第5回 8/ 1～ 8/12、第6回 9/ 5～9/16

第7回 10/3～10/14、第8回 10/31～11/11、第9回 11/28～12/9

第10回 1/16～1/27

- 2) 新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに基づいて通所及び訪問による指導を行う。指導数は月5ケースとする。

※通所及び訪問による指導ケース数は、各受講者の訓練期間により変動するため、月単位で同時に受け入れ可能な訓練ケース数を示した。

- 3) 入所訓練は終了毎、訪問・通所訓練は3ヶ月毎にケース会議を行い、訓練達成度の確認及び評価と今後の計画を決定する。
- 4) 新型コロナウイルス感染予防による入所数制限により、受け入れを延期した入所希望者に対して「臨時の訪問指導」を実施する。

### 2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

- 1) 当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を啓発するために、道内の視覚障がい

者・関係者に対して、相談セミナーの開催を計画する。

候補地 北見、江別

2) 盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化するため、ロービジョンケアの集まりや視覚障がい者団体の行事等に参加し、盲導犬・生活訓練に関する情報提供を行う。また、状況に応じて開催・運営に協力する。

※ロービジョンケアの集まり：視覚障がい者と歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に相談や意見交換を行う場で、札幌、旭川、帯広の3カ所で行われている。受障後間もない方の参加もありピアカウンセリングの場としての役割もある。コロナ禍でオンライン開催が増えている。

※視覚障がい者団体：ここでは札幌市視聴覚障がい者情報センター、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会等を指す。

3) 「第1回ロービジョンケア講習会」(「教育・体験セミナー」より改称)を北海道眼科医会と共同で開催(2022年5月14日予定)し、道内の医療・福祉・教育機関及び視覚障がい者に視覚障害リハビリテーションを普及啓発する。

4) ロービジョンケアを実施する医療機関を中心に日常生活用具展示会及び相談会を、新型コロナウイルス対策を講じながら継続して実施し、視覚障害リハビリテーションの普及啓発に取り組む。

5) 道内の移動支援従事者や同行援護従事者を対象としたフォローアップ研修をオンライン等の活用も含めて企画・実施し、視覚障がい者の外出を支援し、地域との繋がりを深める。

6) 生活訓練受講者に協会行事や訓練・日常生活用具等の情報をオンライン等も活用した情報提供を行い、再利用の機会とする。



## 管理部門 <法人会計>

(2022年4月1日 ~ 2023年3月31日)

1. **理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行う。**
  - 1) 理事会は、年3回を予定する。
  - 2) 評議員会は、年2回を予定する。
  - 3) 三役会、経営会議は毎月開催する。
  
2. **防災対策及び犬舎の暑さ対策を段階的に進める。**
  - 1) クラウドファンディングを活用した犬舎・トレーニング室の冷房設備設置計画を策定し、段階的(1年目実施計画・資金募集、2年目実施)に進める。
  - 2) 自動火災報知設備更新を行う。
  
3. **当協会の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインの運用状況や自治体の指針等を勘案し、ガイドラインの見直しほか必要な措置を積極的に講ずる。**
  
4. **新規採用職員は指導部1~2名、指導部パート1名を計画する。**
  
5. **動物の愛護および管理に関する法律の改正にともない、法律の飼育管理基準を満たし動物福祉に配慮した犬舎犬の管理について見直しを行う。**